Canopyon Initiative のしくみ

なぜ Canopyon Initiative(キャノピオンイニシアチブ)があるのか

代表の薬師川智子は、ケニアで 2 つの会社 Alphajiri Ltd.（アルファジリ）、Tivera Solutions Ltd.（ティベラソリューションズ）を経営する一方、日本で非営利の一般社団法人 Canopyon Initiative も運営しています。会社が「お金の回る経済の土台」をつくり、Canopyon はその土台の上で、直接的な利益は生まれないが、社会課題の解決に欠かせない教育・組織づくり・市場とのつながりづくりを担っています。

この二本立ての形には理由があります。アルファジリを事業として軌道に乗せるまでには 10 年近くかかり、それでもサステナブルに事業を続けるためには、アルファチャマ（相互扶助組織）への教育やサービスを簡略化せざるを得ない場面がありました。

ビジネスだけでは、農家のためのセーフティネットを完璧にすることはできません。かといって、非営利だけでは、ただの援助で終わってしまいます。

薬師川は、最初の 2 年間の青年海外協力隊としての活動、そして 11 年にわたるアルファジリでの起業の試行錯誤を通じて、この「ハイブリッド型」がどれほど重要かを痛感してきました。

なぜこの活動が必要なのか

農家へのサポートが必要な理由

ケニアの農村には、コーヒー・紅茶・酪農など一部の作物を除いて、農家同士の協同組合のような仕組みがほとんどありません。農家が一人ひとりバラバラだと、良い種を手に入れることも、価格交渉をすることも難しく、収入が安定しません。

大豆や落花生は近年、家畜飼料メーカーなどからの需要が伸びていますが、農家が組織化され、品質を保てる体制がなければ、せっかくの需要を所得向上につなげられません。

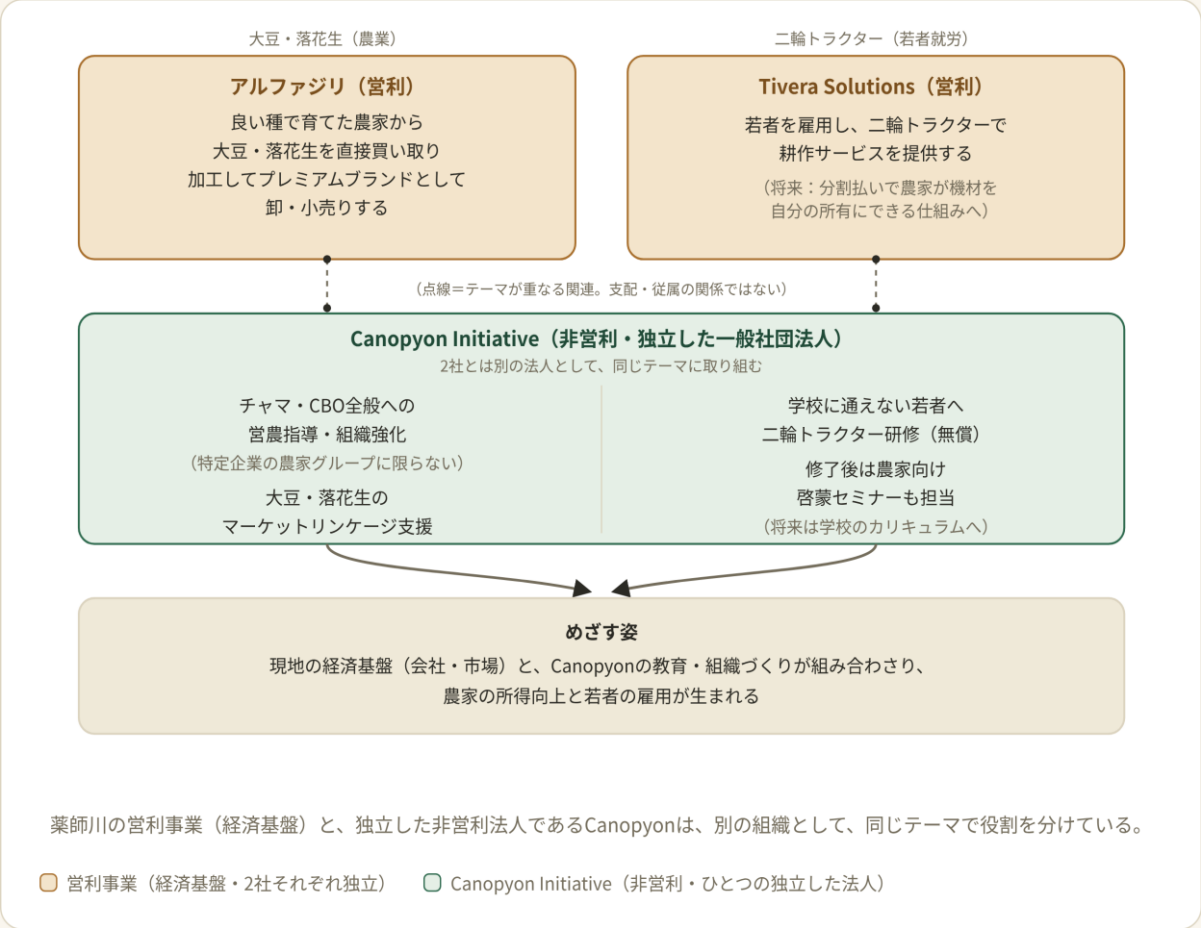
若者への無償研修が必要な理由

農村では人力や家畜に頼った非効率な農作業が中心で、安定した仕事が少なく、若者の就労機会も限られています。中には高校を中退し、学校という形ではもうスキルを学び直せない若者も多くいます。

彼らが手に職をつけるための研修を、授業料なしで受けられる場所は、他にほとんどありません。

全体像

大豆・落花生、二輪トラクターという 2 つのテーマについて、営利企業と Canopyon がそれぞれどのような役割を担っているかをまとめます。



Canopyon はアルファジリ・Tivera Solutions のためだけの組織ではありません。同じテーマ（農村の経済的な自立）に取り組む会社や団体であれば、他の相手とも連携しながら、教育・組織づくり・市場支援を非営利で行っていきます。

活動エリア

- アルファジリ：生産はミゴリ郡、流通拠点はナイロビ
- Tivera Solutions：ホマベイ郡、キリニャガ郡を拠点に事業を展開

Canopyon は、まずはすでに基盤のあるこれらの郡（ミゴリ郡、ホマベイ郡、キリニャガ郡）で活動していきます。

2027 年にやりたいこと

大豆・落花生：農家グループの底上げ

1. アルファチャマなど農家グループの組織状態を再調査し、課題を再把握する（2024 年当時、39 グループ 600 名の農家のサポート・買取を行ったが、その後のフォローアップは 6 グループにしか行えていない）

2. 活発なグループへ、大豆・落花生の栽培指導を改めて行うことで、品質・生産量向上のサポートを行う。
3. 市場とのマーケットリンケージを支援する

二輪トラクター：若者の第一歩を支える

4. 若者への操作・メンテナンス研修を無償で行う（まずはここから）
5. 研修を終えた若者が、農家向けの啓蒙セミナーも担う
6. 将来は、学校のカリキュラムに組み込むことをめざす

成果をどう測るか（指標の案）

- 営農指導・マーケットリンケージを受けたチャマ・CBO の数、農家の数
- 大豆・落花生の品質や収量が改善した農家の数
- 二輪トラクター研修を修了した若者の数、うち仕事として自立できた人数
- 研修を受けた若者の耕作サービスを利用した農家の数